

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
330	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of glioblastoma; evidence from the Melbourne Collaborative Cohort Study. アルコール消費量と膠芽腫のリスク ; Melbourne Collaborative Cohort Study からの証拠	
執筆者	
Baglietto L, Giles GG, English DR, Karahalios A, Hopper JL, Severi G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2011 Apr 15;128(8):1929-34.	
キーワード	
膠芽腫、リスクファクター、アルコール消費量、前向きコホート研究	
要旨	
目的： 脳はアルコールの作用に対して感受性が高い。そして、アルコールの発癌性に対して潜在的に感受性が高いにもかかわらず、アルコール消費量が膠芽腫のリスクに関連するかどうか明らかではない。この研究では、アルコールの消費量と膠芽腫のリスクとの関連について明らかにする。	
方法： 1990～1994年にリクルートされ、2008年まで平均15年間追跡した Melbourne Collaborative Cohort Study の参加者 39,766 人のデータを分析した。脳の膠芽腫発症はビクトリアおよびオーストラリアにおける癌登録によって確認された。ベースライン時に、構造化された対面インタビューで、10年間の各参加者を選出した。アルコール飲料の消費量、ハザード比(HR)、95%信頼区間(CI)は、年齢、生年月日、性別、総エネルギー摂取量、教育歴、コーヒー消費量を調査した。Cox 回帰モデルを用いておこなった。	
結果： 合計 67 人が、コホートのフォローアップ中に膠芽腫と診断された。アルコール消費量が 1 日 10g 増加のハザード比(HR)は 1.16 (95%CI 1.05-1.29, P=0.007)。非飲酒者と比べると、膠芽腫の HR は、アルコール消費量 1～19g/日で 1.07 (0.55-2.10)、20～39g/日で 1.79 (0.81-3.95)、40～59g/日で 3.07 (1.26-7.47)、60g/日以上で 2.54 (0.92-7.00) であった。	
結論： ベースライン時のアルコール消費量は、膠芽腫のリスクと用量反応関係に関連を認めた。	